

1. 会の概要

私達の会は「日韓市民ネットワーク・なごや」と称し、1997年の夏に名古屋国際センターが主催した「韓国理解講座」をきっかけにして、1998年2月7日に生まれた純粋な市民団体です。

会員は、会社員・自営業・主婦・学生からなり、現時点における会員数は約120名余で、90%は日本人で18歳の大学生から戦前に朝鮮半島で生まれ終戦で帰国したお年寄り達まで様々で、残りの10%が韓国人留学生や在日韓国人及び韓国在住の人です。

この会は、日本の市民と韓半島(朝鮮半島)に在住、もしくはルーツを持つ人達と自由な交流を通して、互いに理解しあい、親しくなることを目的としています。この目的を達成するために、私達は精一杯の努力をしています。

韓国の大学生訪問団のホームスティ／受入れをすでに5回行う一方、東海地区の大学生からなる訪問団を3回に涉って韓国各地に派遣しました。

もちろん学生だけでなく、会員による交流を求める旅行も韓国や日本国内の韓国に關係する地域(奈良／明日香)を対象に盛んに展開しております。

そして2001年度からは名古屋周辺で学ぶ韓国人留学生と交流する機会を着実に増やしております。

この他に様々な活動を行い、その内容をまとめた会報を発行して、国内外の国際交流機関や大学及び協力者に送ったり、ホームページを開設してインターネットを通じた交流を行ったりして、交流のネットワークを確実に広げつつあります。

<会のシンボルマーク>



- ・左側の円の色：朱色：日本と韓国の国旗の色から
- ・中央部の色：白色
- ・右側の円の色：紺青：韓国の国旗の色と両国を囲む海の色から
- ・二つの円を組合せて、共に紺青の海に囲まれ陽光降注ぐ豊かな大地に恵まれた日韓両国の連帯と調和を表す



会 則

1. この会は「日韓市民ネットワーク・なごや」とよびます。
2. 「日韓市民ネットワークなごや」は日本の 市民と韓半島(朝鮮半島)に在住、もしくはルーツを持つ人々が有意義かつ自由な交流を通して、相互の理解を深めることを目的とします。
3. この会は、会の目的の実現のため、主体的かつ自らの責任において参加する人々によって構成されます。
4. 会の主旨に賛同し誠実に活動を行おうとする人は、国籍の如何を問わず、会に加入できるものとします。
5. 会の目的を達成するため、総会の実施と会報を発行するなどの活動を行います。
6. この会は、政治的、商業的、宗教的活動は行いません。(但し、人道的な事柄についてはその限りでは有りません)
7. 会の主旨に反する行為を行った会員には、総会の意志により退会を求めることがあります。
8. 会員は総会で定める会費を納入します。
9. 会の運営を円滑に行うため、「幹事団」を置きます。幹事団を補佐する「事務局グループ」「交流リーダーグループ」「世話やきグループ」をおきます。
10. 会の連絡事務局は、愛知県江南市勝佐町東郷 238 後藤和晃方におきます。

付則

1. この会の行事に参加中の傷害・疾病などについては、当会はその責任を負いません。
2. この会則は1998年2月より施行します。
(1999年2月:10条、2002年3月:9条を変更)

以上

<その他補足事項>

1. 会費は、会員区分ごとに定め、当年2月から翌年1月までの1年間分として、会費納入は別に定める宛先に振込む。
2. 会員の区別と会費
 - ・一般会員とは、下記に定める学生会員、特別会員並びに会友以外を言い、会費は年間4000円とする。
(但し 途中入会者の場合、6ヶ月:2000円、3ヶ月:1000円)
 - ・学生会員とは、大学あるいは高等学校在学中の学生を言い、会費は年間2000円とする。
(但し 途中入会者の場合、6ヶ月:1000円、3ヶ月:無料)
 - ・特別会員とは、当会の活動を積極的に支援することができる韓国人留学生を言い、名古屋地区の大学から合計10名程度の人員枠を設け、会費は年間1000円とする。
 - ・会友とは、日韓学生交流の旅に参加した学生について、当会との絆を深めること及び韓国に対する関心を継続して深めることができるように、1年間を会員扱いとする。会費は年間2000円とする。

3. 会の運営と会員

- 1) 会の運営を円滑に行うため、「幹事団」を置きます。幹事団を補佐する「事務局グループ」「交流リーダーグループ」「世話やきグループ」をおき、下図のような実行体制で会の運営を行っております。
- (2) 会の連絡事務局を設け(会則第10条参照)、この連絡事務局を対外的な代表者としております。
- (3) 会員には、一般会員、学生会員、特別会員並びに会友の区別があります。
- (4) 会費は、一般会員の場合:年間4000円/1名です。

2011年度日韓市民ネットワーク・なごや 組織表

日韓市民ネットワーク・なごや

顧問団	名誉顧問	鄭 煥 麒
	"	横内 恭
	"	伊藤 秋男
	代表顧問	石原 俊洋
	顧問	尹 大 辰
	顧問	李 尚 勲

幹事団 (全員事務局兼務)	統括 幹事	後藤 和晃
	副統轄幹事	中川 修介
	副統轄幹事	鈴木幸之助
	幹事(会計)	伊藤みつ子
	幹事(渉外)	小出 宣明
	幹事(留学生)	須田奈保美
	幹事(高・大生)	久田 光政

事務局	事務局長	後藤 和晃
	事務局次長	中川 修介
	事務局次長	東 道生
	幹事兼務グループ	
	事務局補佐	鈴木奈津子
	事務局補佐	竹中志保美
	事務局	武田 章敬

交流リーダーグループ	徐 彰 教	韓国での交流
	坂野 慎治	ソウルでの交流
	目黒 博	留学生
	武井 一	日韓交流史
	宮本 昌子	日本語指導
	加藤 勝	囲碁交流
	伊藤 義郎	歴史・考古
	土岐 良文	歴史・考古
	三尾 和廣	森で遊ぶ
	土本美恵子	
	田口 良浩	ハイキング
	長澤 進	日本古典音楽
鈴木 健介	大学生・留学生	

世話やきグループ	増田 一夫	松田 哲育
	鶴飼 満	山田あき子
	佐藤 昭子	山本 玲子
	山田 雅樹	市川 延江

監査	会計監査	大久保孝造
----	------	-------



“日韓市民ネットワーク・なごや” 2010年度実績

日韓市民ネットワーク・なごや

月	日	曜日	行 事	人数	備 考
4	9	金	韓国大邱市での水崎林太郎翁追慕祭に参加	4	遺族・事務局から
	18	日	日韓交流史講座Ⅱ百済編－3 百済木簡から読み解く交流	47	歴史民族博物館 平川 南 館長
	29	木	“日韓市民”交流の森	56	犬山市・八曾自然林
5	3	月	日韓の高校生交流を支援	70	グループ“ハムケ” 久田光政幹事
	16	日	日韓交流史講座Ⅱ百済編－4 百済古墳の特徴と影響	45	南山大学名誉教授 伊藤 秋男 氏
	21	金	韓国光州弁護士会と交流	9	事務局グループ
6	26	土	日韓交流史講座Ⅱ百済編－5 渡来系歌人の系譜	49	奈良大学 上野 誠 氏
7	20～ 24	火～ 土	日韓交流史講座Ⅱ百済編－6 栄光の百済・残影紀行	25	忠南大教授 朴 淳弼 氏
8	5～ 9	木～ 月	光州学生訪問団受け入れ パーティ 8月8日(日)	50	団長 パン・スギョン理事
10	31	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－1 新羅の誕生と全国統一	30	日比谷高校教諭 武井 一 氏
11	14	日	許浚「東医宝鑑」400年記念シンポに強力	150	会員・協力者
	28	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－2 新羅古墳と日本の古墳文化	54	九大名誉教授 西谷 正 氏
12	19	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－3 正倉院に見る新羅の影響	51	国学院大教授 鈴木 靖民 氏
2011年					
1	8	土	話してみよう韓国語・日本語大会	50	ハムケと共催
	16	日	日韓市民交流の夕べ	52	会員・留学生・協力者
	23	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－4 万葉集と新羅	50	日本大教授 梶川 信行 氏
2	13～ 17	日～ 木	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－5 黄金の新羅・残影紀行	26	大邱・慶北大 朴 天秀 教授
3	20	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－6 新羅・亡国への道	47	日比谷高校教諭 武井 一 氏
	20	日	第14回総会		

“日韓市民ネットワーク・なごや” 2011年度予定（案）

日韓市民ネットワーク・なごや

月	日	曜日	行 事	備 考
4	17	日	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路・海峡の島々－1 地理で見る 対馬・壱岐・北九州	日比谷高校教諭 武井 一 氏
	3～5	火～木	日韓の高校生交流を支援	グループ“ハムケ” 久田 光政 幹事
	21	土	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路・海峡の島々－2 海峡を渡った弥生文化～原三国の集落と弥生の集落～	九州大学教授 武末 純一 氏
5	22	日	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路・海峡の島々－3 ^{1st} 古墳時代以後の遺跡	九州大学教授 武末 純一 氏
	28	土	“日韓市民”交流の森	犬山市八曾自然林
	未頃		韓国光州弁護士会と交流	事務局グループ
6	19	日	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路・海峡の島々－4 海峡の島の宗教世界	奈良県立図書情報館長 千田 稔 氏
	17	日	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路・海峡の島々－5 倭寇 奔る 海峡	名古屋大学教授 高橋 公明 氏
7	22～26	金～火	高麗大学生訪問回受け入れ 奈良旅行とホームステイ・交流の夕べ 7月24日(日)	会員・協力者
9	27～30	火～金	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路・海峡の島々－6 海峡の島々紀行 ～対馬・壱岐・北九州～	九州歴史資料館館長 西谷 正 氏
12	11	日	日韓市民交流の夕べ 名古屋韓国学校に於いて	会員・留学生・協力者
2012年				
1	7	土	話してみよう韓国語・日本語大会	ハムケと共催 ※日程変更もありえる
3	18	土	第15回総会	

※ 2011年10月より、日韓交流史講座「高句麗・渤海シリーズ」の設定を検討する。

5. 活動の要点

(1) 韓国の市民／学生のホームステイ受入れと交流会

当会からの呼び掛けあるいは韓国の交流団体からの要請によって、当会主催で年に1回程度のホームステイの受入れを行い、併せて韓国からの訪問者と当会会員及び名古屋地区の学生との交流会を実施しております。

ホームステイの実施に当っては相互に交流協定を文書にて結び、ホームステイ期間は2泊3日ないし3泊4日程度、受入れ人数は10～20名程度の規模で行っております。交流会については、会員が手作りの料理を用意したり会場設営を行うなど、お金は掛けませんが心のこもった交流会を実施しております。

なお、日本に来ている韓国の留学生に対しては、日本人の家庭及びその生活を知ってもらうことを目的に、年に1回 ホームステイウェーブと称して1泊2日程度のホームステイ受入れを行います。

(2) 当会会員及び当会が支援する学生による韓国訪問と韓国の市民／学生との交流

韓国と日本の歴史の関わりを知る事や、韓国の各都市の市民／学生との交流を目的に、当会会員及び当会が支援する学生が韓国を訪問し、史跡・記念館などの見学を行ったり、韓国人の家庭でホームステイの経験や韓国の人々との交流を行います。

(3) 講演会／勉強会

韓国／朝鮮に関連した文化・風土・歴史の知識を深める目的で、適宜に講演会／勉強会を実施しております。場合によっては、新聞などに行事の公知をしております。なお、他の団体と合同で開催することもあります。

(4) その他の行事

- ・総会を年1回実施します。(3月)
- ・年末／年始に交流パーティを実施します。(これは会員同志の交流の場として行いますが、韓国の留学生や他の団体などにも幅広く参加を呼び掛けております)

(5) 会報の発行とホームページの設置

当会の会員に、活動計画を連絡したり実施内容を報告するほか、会員の動向や考え(会員の声)を発表したり韓国に関する身近なニュースなどを掲載し、会と会員の意志の交流を促進する場として、3か月に1回(年4回)発行しております。会員の皆さんに興味を持って読んでもらえるように、イラストや写真／新聞記事などを交えて編集しております。なおイラストには、NHKハングル講座の表紙の作画を担当された民画家「池貴巳子」さんの作品を、「池貴巳子」さんから内諾を得て使用しております。また、外部の人々に当会の主旨と活動を知ってもらうことを目的とした広報活動と位置づけしており、会員だけでなく当会との交流がある国内外の関係諸団体にもこの会報を配付しております。1999年からはホームページを開設し、当会の会報を掲載するほかインターネットによる「交流の場」を設けて、幅広い交流のネットワークを広げております。



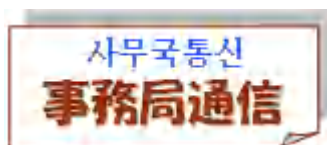
ホーム	最新ニュース	交流館	会の概要	入会受付
韓日歴史座談会	日韓交流史講座	会員のHP	会員随筆集	伝統と文化
リンク	在日を生きる	ユンの部屋	メールマガジン	お問合せ

創立13周年

日韓市民ネットワークなごや

この会は、日本の市民と韓半島(朝鮮半島)に在住、もしくはルーツを持つ人達と自由な交流を通して、互いに理解しあい、親しくなることを目的としています。

(※政治的、商業的、宗教的活動は一切行いません)



회원마당
会員広場

